

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### 【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### 【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### 【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかえる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム コロナ
(ユニット名)	コロナ 2
所在地 (県・市町村名)	三重県津市大里窪田町1706-26
記入者名 (管理者)	片山 隆久
記入日	平成20年6月1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

( ■■■ 部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

## I. 理念に基づく運営

### 1. 理念と共有

	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>田や畑に囲まれた自然の中で、四季の変化を体感しながら、人生の最終の住み家として、その人らしく暮らしていただく。</p>	○	<p>経営者は医師で、毎日利用者の健康チェックがあり、健康、医療面でも家族、利用者ともに安心できるようにしている。</p>
	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>利用者の介護、支援の中で理念の実践について日々取り組んでいる。</p>	○	<p>会議やその場で、常に対応について吟味し、理念に沿うようにしている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>利用者と近所を散歩しながら、地域の住人と親しく交流をふかめている。</p>	○	<p>開設時は内覧会を行い、日常はいつでも見学者に施設の説明と介護、支援の取り組みについて理解を求めている。</p>

### 2. 地域との支えあい

4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所との交流もあり、季節の野菜や果物などを頂いたり、地域の人が作った果物などを買ったりして親交を深めている。</p>	○	<p>地域で栽培された秋のブドウを毎年購入して、利用者とともに賞味している。</p>
	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の青少年健全育成のため、子供SOSの家の旗を見えやすい所に設置し、地域活性に参加している。</p>	○	<p>敬老の日は地元の老人会には参加している。</p>

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>施設の近所の人で、二神クリニックに通院している高齢者もおり、その人から薬を施設に置いておいてほしいと頼まれることもしばしばあり、その管理もしている。</p>	○	<p>地域高齢者が、さらに多く立ち寄っていただけるようより交流をふかめていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>年1回自己評価をしたり、外部評価を受けることは大切で、施設の質の向上と改善には必要と思われる。</p>	○	<p>外部評価の調査員との意見の相違はあるものの、改善項目については早急に改善している。</p>
	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は施設のメンバーのみであったが、最近では利用者の家族の参加もあり忌憚のない意見をいただいている。</p>	○	<p>今後は、地域の人や行政関係の人にも参加を促していきたい。</p>
	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村との連携はあまり進んでおらず、今後の課題である。</p>	○	<p>市役所への訪問の際市職員の研修場所として施設の活用を呼び掛けている。事故報告は行っている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護を利用している入居者がいて、職員は実感し、経験した。</p>	○	<p>今後、権利擁護の利用から成年後見制度への移行とタイミング、問題点について関係者と話し合っている。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>関連の研修には積極的に参加し、連絡帳や申し送り等で情報を全員が共有し、虐待防止に努めている。</p>	○	<p>問題と思われる言動や対応についての情報は吟味し、直接改めるように指示したり、会議で共通の問題として話し合っている。</p>

4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明で理解、納得の上、署名、捺印を求めている。	○	不安、疑問等の発生時には、いつでも十分な説明を行い、理解、納得していただいている。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見、不満、苦情に関しては、訴えられやすいように書面にてわかり易い所に掲示し、遠慮、気兼ねが無いように配慮している。	○	今まで発生した個々の事例に関しては、すべて解決し、満足されている。
	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	定期的に利用者の暮らしぶりや行事等はコロナ通信にて、健康状態での特変は随時連絡。金銭管理はおこずかいの預かり金が少なくなった時、出納報告と領収書を添えて報告している。	○	コロナ通信で、職員の異動等も連絡しようと思っている。
	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の協力が得られないときでも、詳しく状況を説明し、介護計画の理解、納得を図っている。また、利用者一人一人の介護計画には署名、捺印の上同意していただいている。	○	家族等が意見、不満、苦情を自由に訴えられるようにしており、意見があれば、真摯に受け止め、運営に反映する用意がある。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	運営会議で、職員の前向きな忌憚のない意見があれば発表してもらい、吟味している。	○	職員の中には、職員旅行や忘年会の具体案がでて、忘年会は実施した。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	コロナ1, 2ともに、日勤帯は3人(早番、日勤、遅番各1人)及び、通常は管理者1人が勤務し、夜間はそれぞれ夜勤者が1人ずつ勤務している。	○	管理者は、夜間、休日の利用者の特変に対して、対応指示を出したり、現場に赴いて指示を与えている。
	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	施設内での職員の異動はなく、離職による場合は、新規採用で補っている。	○	各ユニットは正社員で固定化し、パート2名は、利用者きちんと紹介し、固定せず各ユニットで働いている。

## 5. 人材の育成と支援

	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要に応じ、研修を受ける機会は用意している。</p>	○	<p>在職中、介護福祉士を取得した人や介護支援専門員の実務者研修に出た人もいる。また、退職者ではあるが、ヘルパー2級を取得した人もいた。</p>
	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設との交流に対しては積極的ではないが、訪問見学に関しては受け付けており、何人かの見学者もいた。</p>	○	<p>職員から、興味のある施設があれば、管理者から紹介し、自由に研究できるよう手配している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>手足を伸ばせる和室や喫煙のできる別室もあり、利用している。</p>	○	<p>職員の人員的余裕があれば、休日を増やしたり、施設のカラオケも利用者と一緒に楽しんだりしている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は頻繁に現場に来ており、職員の疲労がたまらないよう、就業規則があり、守られ、健康診断を実施して、職員の心身の健康を保つための対応をしている。</p>	○	<p>年末年始、ゴールデンウィーク、お盆等は公休を増やしたり、土用の丑の日には、毎年ウナギをふるまったりしている。</p>

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の不安や心配事を、安心してもらうまでよく聞き、しっかりはなし、信頼関係をつくっている。</p>	○	<p>施設利用希望者がたくさんいるも、空き部屋がないため説明のみで終わってしまうことが多いので、何とかしたいとおもっている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の苦労や不安、求めていることをしっかり聞いて、サービスについて十分説明し、信頼関係をつくっている。</p>	○	<p>施設サービスの限界まで話をしている。終末期ケア、看取りなどについても話をしている。</p>

25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの支援の内容、当グループホームで出来ることなどを話し、他の施設サービスとの違いや限界についても説明し、理解を求めている。	○	施設利用中、精神状態の悪化、骨折、摂食困難などで専門医療が必要な時、家族と相談、専門病院へ入院して治療を行ってもらった。
	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所して初めてのときは、環境の変化に不安や孤独感で戸惑い、落ち着かないため、家族の面会を多くし、積極的に話をして、施設になじめるよう、最大限の努力をしている。	○	部屋がなかなか空かず、新しい入居者はなかなかないが、もし新しい入居者があった場合、施設になじめるよう最大限の努力をしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の自立心とADL向上のため、自分で出来ることは、出来るだけ自分でしてもらっている。	○	今日出来なくても、明日はできる可能性があると話、見守り、促しの声をかけている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会をしていただいたり、促したりし、家族の近況報告や故郷の様子を話していただいている。	○	ボランティアや慰問、施設の行事にも参加を促し、ともに感動を共有している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	盆や正月の外泊外出、墓参りなど身内だけの行事には出来るだけ参加できるように話している。	○	理美容を提案し、面会、外出の機会を設け、年賀状や暑中見舞いなども勧めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出を勧めており、知人などがいれば、施設に遊びに行ってもらおうと話している。	○	今後も、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各職員は、利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○	昼間はできるだけ、フロアのほうに出てきて過ごすようすすめる、孤立化を防いでいる。

32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には、これまでの経過や状況が十分わかるように文書で転居先に連絡している。	○	職員は、利用者の転居先や転院先を訪ねて、状況や状態を把握している。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、言葉や表情、態度より一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	疎遠な間柄の家族ではあっても、その思い、希望、意向が徐々に理解できてきている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話、家族からの情報、診療情報提供書などにより、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	食事などにおいても、好きなもの、嫌いなものを聞いて、マグロやメジの刺身が好きな人、ウナギが好きな人のための料理を出している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○	朝なかなか起きられない人や、夕食後直ぐ就寝される方もいるが、できるだけ朝食に声かけをして、起きられない人は、遅れて朝食をとってもらおうようにしている。
できる				
	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は、定期的にケース会議で検討している。	○	本人、家族の意向があれば、介護計画に反映していく。
	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最長3か月に一度ケース会議で取り上げ検討している。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、その都度新たな介護計画を作成し、家族に報告、承認していただいている。	○	入退院を繰り返している入居者がいるが、施設は帰られたのち、今までの介護計画を見直して、新たな計画を作成している。

38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイル、業務日誌、排便記録、献立表などを記録し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	嚥下障害がみられるようになった利用者には、刻み食や流動食、トロメイクによるとろみ付けなどにより、対処している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経営者が医師であり、毎朝夕訪問時、一人一人健康チェックをうけている。また、急変時などにはただちに治療がおこなわれ、毎週金曜日には訪問介護も受けている。	○	歯の治療や、時には美容院などへの送迎や、気分転換のコーヒーショップへの外出もしている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによるダンス、人形劇、手品など、消防署の協力による非難、防火訓練を行った。また、一般ボランティアによる歌などもあった。	○	利用者本人や家族の意向があれば、民生委員と意見交換する機会を設けたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援はしていない。	○	利用者の意向があれば、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしていきたいが、現実的には費用との面で難しいと考える。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	いつでも協働できるよう、訪問し、担当者と意見を交換している。	○	該当者がいれば、訪問し、協働していきたい。
	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営者が医師で、大部分は経営者が主治医となっているが、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	以前からのかかりつけ医が施設まで、訪問診療に来てくれた利用者もいた。



44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>経営者は内科専門医で認知症に関しても十分熟知し、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられる体制にある。</p>	○	<p>現在、医療面に関してはまったく問題がない。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>週一回の医療連携体制が整っており、健康管理は充実している。</p>	○	<p>現在の状況を維持していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>経営者の医師は横の医療機関との関係、連携もしっかりしていて病院関係者との情報交換や相談も十分である。</p>	○	<p>医師である経営者は利用者の病状を最も熟知しているので、施設スタッフも心強い。</p>
	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならび医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有しているが、症例によりその都度もっとも適切な選択をする予定である。</p>	○	<p>病院による専門治療で、機能の回復、生命の改善が得られると考えた場合は、入院の方針である。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、医師とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	<p>家族の意向を最重視する。施設でケアする場合は、最善をつくす。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>診療情報やアセスメントシートをてわたしている。</p>	○	<p>馴染みの職員が機会を作って訪問、面会に行っている。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

##### 1. その人らしい暮らしの支援

##### (1)一人ひとりの尊重

	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていないよう、職員全員が注意している。	○	利用者が不快にならないよう、言葉遣いや態度に注意している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	難聴や感覚性失語症の利用者に対しても、筆談などを通して意志の疎通を図り、自身の意見を出してもらっている。	○	重度の認知症の利用者に対しても相手の表情や態度を見て、適切に対応している。
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴は楽しみの一つであり、十分に時間をとって、希望に沿って支援している。	○	たとえば入浴に関して、昨日利用できなければ本日利用できるように支援している。

##### (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	手軽に職員が髪を切ってあげたり、希望があれば近くの美容院へ連れて行ったりして、本人の満足のいくようにしている。	○	家族の方が、馴染みの理容院へ連れて行っている利用者もいる。
	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な人は、配膳や下膳、下ごしらえなど一緒にしている。	○	利用者は食事がおいしいと喜んでいる。ステーキ、すき焼き、マグロやメジのさしみ、ウナギのかば焼きなども食材としてリクエストあり。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好の支援は日常的に楽しめるよう支援している。	○	別室での喫煙、喫茶店でのコーヒーやケーキなど時々出かけてたのしんでいる。

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、排便記録をつけ、排泄を促している。	○	トイレでの排泄が増えるよう、メモしながら効率よく支援している。また、寝る前にはトイレ誘導を行っている。
	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回入浴を実施し、昼食後に十分時間をとっている。	○	各ユニット2か所ずつ風呂があり、入浴は十分楽しんでいただいている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全室冷暖房完備で、春夏秋冬快適な室温で休息安眠できる。	○	昼間は和室で自由に歓談し、足を伸ばしている。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の力が発揮できるよう、出来そうな作業や仕事をお願いし、ねぎらいや感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	マンネリ化しないよう、ケース会議などで、ほかに出来そうな仕事を検討。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や状況に応じてお金の所持を支援していきたいが、現在自分で所持、管理できる利用者はいない。	○	以前認知症のごく軽い人が入居していたが、その人は自分で自分のお金を管理していた。
	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。	○	墓参り、一部の方の通院などは家族の方と一緒に出かけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段は行けないところに、個別には外出支援している。	○	大きなレンタカーを借りて、職員及び利用者全員で春の花見に出かけた。

63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いなど毎年勧めている。	○	夜間利用者からの突然の申し出に対しても対応支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は明るく整然としてあり、花卉の栽培で親しみやすく、不快な臭いや音もなく、職員は笑顔で愛想よくしている。	○	二階への訪問もエレベーターがあり、足の不自由な方でも楽に移動できる。また居室、その他の部屋にも自由に行き来できるように計らっている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、月に1度は議題にあげて取り組んでいる。	○	夜間オムツを開放し、下半身裸になる癖のある利用者に対し検討し、開放する時間帯に介助することにより解決した。
	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけていないが、居室には、居室を出る時止む負えず鍵をかけているユニットがある。部屋に帰るときは、鍵を開けて部屋に入るように介助している。拘束、閉じ込めのための鍵ではない。	○	徘徊、収集癖のある利用者が他の利用者の居室へ入り、トラブルを起こすためやむ負えず、外出(部屋を出る)時に各居室に鍵をかけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	終日職員は利用者を見渡せるところから、さりげなく察知している。居室のほうは定期的に訪問、確認している。	○	夜間巡視は原則3回、発熱などのときは必要に応じ回数を増やして巡視している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁などの危険物については、別途保管している。	○	身近に置かれて使用するもの、保管が必要なもの、注意が必要なもの等分けて管理保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための検討をし、ヒヤリハットに関する報告、記録もあり整理保存され、事故防止策を検討している。	○	嚥下障害に対してはとろみをつけるため、トロメイクを使用。食事でも誤嚥のないように工夫している。歩行障害のある利用者に対しては歩行器や杖、車いすを使用している。また、手すりを設置した。

70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の連絡、利用者急変時の連絡、対応は完備している。	○	発熱や、血圧上昇、低下、けいれん発作当のときはただちに医師の指示により対応している。
	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施。安全で無理のないようにしながら、時間の短縮を目標にしている。	○	現在、避難訓練は日中のみでしているが、夜間も想定して検討したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策をとっている。	○	利用者の病状、状況については、医師より説明。日常生活に関してはスタッフより説明している。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、医師に連絡。食事量、体温、血圧、顔の表情唇や皮膚の色や発疹、排泄状況、排泄物の状態などをチェック、記録している。	○	状況の変化があった場合は、ただちに医師の指示により対応。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の服薬管理をし、服用忘れがないようにしている。	○	服用難が出た時は、オブラートに包んだり、粉末にしたり、ゼリー状のものと混ぜ合わせたりして工夫し、服用してもらっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や水分摂取を勧め、運動など工夫して便秘予防をしている。	○	嫌いなものに対しては、料理を工夫している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは忘れないように声かけや見守りで清潔を保持している。	○	舌苔がついたら、専用ブラシを購入して職員がついて見守り支援している。

	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>1日3食主食、副食の摂取量をチェックして記録し、注意している。また食事量が減った場合は、その原因を追及、検討して対処している。</p>	○	<p>便秘、好き嫌い、食前のお菓子、発熱などの原因に対して対応している。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策委員会を立ち上げ、感染症対策マニュアルも作成し、施設内感染予防や対策は万全で、実行されている。</p>	○	<p>インフルエンザワクチンは利用者、職員ともに毎年施行されている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材は賞味期限を確認し、新鮮ななまものはできるだけ早くしようしている。</p>	○	<p>布きんは每晚殺菌しようどくしている。賞味期限のあるものは、使用期限内に使用できるように申し送っている。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>道路や施設敷地内にコロナの看板を設置し、車いすでもはかれるように玄関にはスロープがつけられている。また花作りも共同で行い、雰囲気作りをしている。</p>	○	<p>道に迷った訪問者でも近所の人たちに正確に施設の位置を教えてもらい、到着できた。</p>
	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂には季節の花を、入浴には季節感を表すものをとりいれている。玄関にも季節感が感じられる工夫をしている。</p>	○	<p>入浴時、5月の節句には菖蒲湯を、12月の冬至にはゆず湯を行って季節感をとりいれている。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>隣の棟には手足が伸ばせてくつろげる和室があったり、一人でも喫煙できる部屋を用意してある。</p>	○	<p>和室でおやつを食べたり、テレビを見たり、洗濯物をたたんだり、昼寝をしたり、寝転んだりしてゆったりすごしている。</p>

	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時より家族には今まで使用してきたもの、愛着のあるもの、懐かしいものやアルバムなど持参するよう協力を求めている。</p>	○	<p>今後も家族に使い慣れたもの等の持参の協力をお願いする。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空調設備は整っており、朝の掃除、入浴後、排泄後には空気の入れ替えをしている。</p>	○	<p>居室も空調設備は整っているが、1日1回以上は窓を開けて換気している。</p>
し				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>電自動介護用ベッドが設置され、離床時の手すりもついており、安全に離床できるよう配慮している。また室内ではテレビ、冷蔵庫、携帯電話も自由に使用できるよう話している。</p>	○	<p>ADL低下に対して、室内ポータブルトイレを使用している。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫し、わかるまで説明している。しかし、ほとんどの利用者がすぐにまた、忘れてしまう。</p>	○	<p>利用者の居室のネームプレートを目線の高さに合わせ、目印に人形や写真を飾っている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関の周りにはプランタで花作りをしており、水やりなどをしたりしている。車いすでもスロープを使って自由に降りられる。水道も使いやすい位置に設置されている。</p>	○	<p>小規模だが、野菜の栽培もおこない、成長と収穫を楽しみにしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

この施設は、経営者が医師で、主治医を兼ね朝夕の健康チェックをしているということから、日常の健康管理や急変時の対応は万全です。  
 家族の方もその点では安心して利用されているとおもいます。  
 さらに、院内感染に対する知識や経験もあり、安心して生活できるとおもいます。  
 また、スタッフは料理上手で思いやりのある、やさしい心根の人たちばかりで、虐待等の心配もなく安心して任せられます。